

人が支える社会

暑い季節となりました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。
水分補給をしっかりして、夏バテされないよう体調管理にはご留意ください。

新聞やテレビ、雑誌などで景気回復の内容を頻繁に目にすることになりました。地域でのお仕事では景気回復を感じられるでしょうか。眞の景気回復は今からだと感じます。是非とも国として具体的な施策を遂行するうえで、本当の景気回復につなげていただきたいものです。

さて、本日は少し思考を変え、業界の話題とは違う内容を記事にさせていただきたいと思います。内容は日本の道徳についてです。景気回復が話題になる一方で道徳に関する書籍が数多く店頭に並んでいるのを目になります。「今だからこそ」「これからの社会に」などのキャッチフレーズで店頭に並んでいます。今なぜ道徳が話題になるのか、まだまだ私自身も勉強中ですが、そもそも日本の道徳の起源はどこにあるのでしょうか。

日本の道徳の起源

道徳に関する書籍を何冊か読んだ中で、日本の道徳は「武士道」にあると記述されていました。武士のルーツは室町時代にさかのぼり、その後糸余曲折を経て武家政権が誕生した鎌倉時代あたりから自覚されてきたのではないかと言われています。当時に記された体系的な文献はなく、有名な武家の家訓や武士、学者の言葉、藩士の心得などが口伝されていただけだったそうです。

書物「武士道」

その武士としての生き方を体系的にまとめた書物「武士道」。1900年に新渡戸稻造が諸外国の人々に日本人という人種を紹介するために書きました。当時は日本開国の最中、宗教教育のない日本人はどうやって道徳教育をしているのかと問われたり、また外国人の妻を持った新渡戸稻造が生活の中で日本人について質問されることがあり、自分自身の道徳心がどのように育まれたのかを振り返り「武士道」に至ったと記されています。この書籍の初版は英語でした。その後30か国以上で翻訳され読まれています。

武士道のルーツ

新渡戸稻造の書いた「武士道」は理想の武士像という内容が濃く、何百年という歴史を体系的にまとめようすると極めて難しい部分もあり、現実とかけ離れた内容もあると言われています。主觀の入った書物ではありますが、世界各国で読まれる理由は、人間の根本的な哲学が書かれ、その内容はキリスト教や科学的な考え方など世界で普遍的に知られている考え方を基礎として描かれているからだと言われています。ちなみに新渡戸稻造はキリスト教徒でした。

この本に書かれた武士道のルーツは仏教、儒教、神道にあり、儒教における五つの徳目(仁・義・礼・智・信)と忠・勇・克己・名誉という四つの徳目の



株式会社MANIX
代表取締役社長
松田 幸治

一つひとつが説明され、その中でも「義」が最も大切で重要であると書かれています。そのすべての頂点に立つのが名誉であり、武士として名誉を手にするならば命も惜しくないと考えがありました。

「義」とは正義感のことを示しており、道理に従って迷うことなく、どう行動するかを決断する力としています。武士として義士と呼ばれることが最も名誉なことであり、忠臣蔵に出てくる赤穂浪士(義士)の話は「義」の話として当時でも語られていました。

日本の道徳教育

武士道の精神は全てが現在の教育に活かされるわけではありませんが、日本人としての精神や人としての在り方を学ぶ上では重要なものだと感じます。現在の学校教育における道徳の授業は算数や国語などの授業に比べると授業単位数はきわめて少なく、学校によっては授業 자체をも行われていないこともあると話を聞きました。教師としても道徳の定義は壮大で何を教えるべきなのかを解釈するのが難しいと聞きます。

道徳は学校だけで学ぶものではなく、普段の生活の中においても学ぶことはできますし、親から子へ伝えられることも多くあるのではないかでしょうか。ある教授が道徳は心の教育であり「しつけ」とは違うと言っていました。たとえば「挨拶をしなさい」という言葉だけではしつけと捉えるかもしれません、その真意は「相手に敬意を表しなさい」とことであれば心の教育かもしれません。伝わり方の問題もありそうです。人としての生き方を学ぶことができる武士道。これからの社会を担う子供たちには是非、触れる機会を持ってもらいたいと思っています。

〈最後に〉

このたびの記事は業界を離れた内容になりました。個人的な主觀や自身の気の持ち方も文章に反映していますので、考え方には賛否があるところかもしれませんとご了承いただけたらと思います。

どんなに技術が優れてもITが発達し取引の中で相手の顔が見えなくても、世の中のすべては「人」で成り立っています。その一人ひとりが自分自身の人生を歩むうえで、それぞれの考え方を持ち、自身の価値観の中で物事を判断します。市場主義社会の中で競争原理が働くこの世の中においても、私たちがビジネスを続けていくには、根の部分に人として日本人の気質や道徳心を持ち続けることが大切であることを、私自身まだ足りませんが、あらためて勉強することができました。これからも見識を深めていきたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました。